

# それでも「紙」が好き？

生活スクープ  
探検隊

最近、電子書籍が急速に増え、印刷物は減びゆく運命か—  
と思っていたら、どっこい「紙派」の読者は多く、デジタルにはないメリットを唱える専門家も多いようです。(松田 千明)

## 文字の大きさ自在、何冊も携帯

## 電子書籍 官民で普及促進

電子書籍は、インターネットで欲しい本をダウンロードし、パソコンやスマートフォンといった電子機器の画面で読む出版物です。

一つの端末で何冊も持ち歩き、ネットと連動させて言葉の意味を即座に検索できたり、簡単に文字を大きくできたりと高齢者にとっても読みやすくなるのが特徴です。

国や業界を挙げ、電子化が今年になって活発になってきました。市場を活性化させるため、国が補助金を出して年間約6万冊を電子化させる「コンテンツ緊急電子化事業」がスタート。270を超える出版社が賛同し、今月「出版デジタル機構」という新会社を設立。100万点を目標に掲げます。

## 目が疲れる／読みにくい

### 読者アンケート 目立つデジタル否定派

こうした追い風を受ける一方、不満点を挙げる読者は少なくありません。

よみファクターイクラブ員のアンケートでは44人のうち44人が電子書籍で読んだことがあると回答。そのうち3分の2が物足りなさを感じていました。

「小さい液晶画面は、網膜の中心のみで見えますので、周囲が視界に入り余計に疲れます。目の調整能力が衰えてくる40代を過ぎると、画面のコントラストを下げ、できるだけ大きな画面で見たい方が疲れにくいでしょう」と話しています。

三田市のN・Nさん(37)は「読もうとしても何となく落ち着かないんです」とこぼし、甲賀市のT・Tさん(33)は「目がすぐ疲れまくる」と話します。吹田市にある保倉眼科院長の保倉透さん(53)は「光って見える画面上の黒い文字を見ると、目の網膜と脳が明るい所と暗い所のどちら

「画面で文章を読むの

に比べて、紙の場合は読み飛ばしが少なく、誤字に気づきやすいと感じませんか」。こう話すのは、「脳を創る読書 なぜ『紙の本』が人にとって必要なのか」(実業之日本社の著者で、東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授(47)。

デジタルの場合、画面を上下にスクロールすると文章が視界から消えませんが、紙ならページをめくって行きつ戻りつが素早くできます。そのうえ、「何ページの何行目」と位置を探ることが簡単なので読み飛ばすことが少ない。

酒井教授は「紙の上の文章を目で追うという行為には無意識に文字などの位置を確認し、

「注意を向ける範囲」をコントロールする効果があるので誤字も見つけやすいんです。皆さん、経験があると思いますが、携帯メールも実は誤字が多いんですよ」と言います。

関西国際大学教育学部の中西一彦准教授(57)も紙の利点を挙げます。「知らない単語が出ると電子辞書なら確認するだけで終わりますが、紙の辞書なら別の言葉に出会う偶発の発見があります。300ページを読破した時の達成感は紙の方が得やすく、次の読書への意欲にもつながります」と話し、「子どもにとって、手に触れて読むという体験が内容と結びついて記憶になり、学習にもプラスになります」と付け加えます。

## 専門家も紙の利点を強調

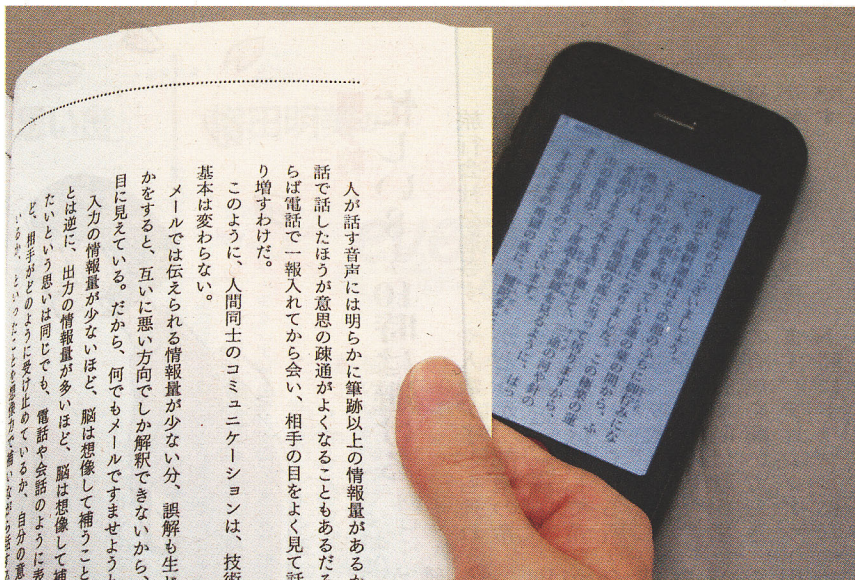
## 「誤字に気づきやすい」「子どもの教育にプラス」

## 読み比べできる施設も

### 普及は共存がカギ

国立情報学研究所連想情報学研究所発センターの阿辺川武特任准教授(37)は「本屋さんで触れて試し読みできないのが電子書籍の課題」と強調します。同センターは東京・神田神保町で両者の読み比べができるブース「e読書ラボ」を設置し、阿辺川さんはラボ長を兼務します。

「購入する年齢層を広げるには書店でも買えるようにする必要があります。今後は紙の本と電子書籍の共存が求められていくと思います」と話します。



本の電子化が進みますが、落ち着いて読むには手や目になじむ紙の本が向きそう